No.35
2005年10月３日号
各チームの購読料はチーム登録料に含まれています。定価（一部100円）

㈳熊本県サッカー協会だより

発行／㈳熊本県サッカー協会
〒860-0831
熊本市八王寺町9－60
TEL 096－334－5565
FAX 096－334－5568
発行者／©広報記録委員会
石丸　捷一

第36回 全国中学校サッカー競技大会

ルーテル学院中学校（２連覇）

全国の頂点を争うに相応しい堂々とした入場に会場が沸いた。

ルーテル学院中は昨年の優勝校であり、試合の立ち上がりから多彩な攻撃をしかけ朝日丘中を攻めていった。

朝日丘中もこれまで勝ち進んできたという誇りをもち、粘り強く守り抜いた。

試合が動いたのは26分、ゴール前の混戦の中、ルーテル学院中の藤原選手のシュートが決まり1点先取した。

さらに後半3分、ルーテル学院中は西（美）選手のシュートが決まり追加点をあげた。

2点を奪われた朝日丘中も攻撃に転じ、後半14分、朝日丘中は安井選手の力強いフリーキックが、これまですべての試合で失点0のルーテル学院中から1点を奪った。

試合の流れが朝日丘中へ傾きかけ、あわや同点というチャンスもあった。

しかし、その直後、ルーテル学院中は西（翼）選手の絶妙のドリブル、パスから吉見選手がシュートを決め、3対1とした。

その後もルーテル学院中は攻撃の手を緩めることはなく、さらに寺園選手がゴールを決め、4対1となり終了のホイッスルは鳴った。

試合は負けたものの、朝日丘中の集中力、最後まであきらめない姿勢は感動を与えてくれた。

文　小林晴香

ルーテル学院中キャプテン（村本選手）のコメント

今年は単独優勝を目標にしてきましたので、素直にうれしい。

どこのポジションからでも得点できるチームです。

仲間を信じてやってきたことがよかった。

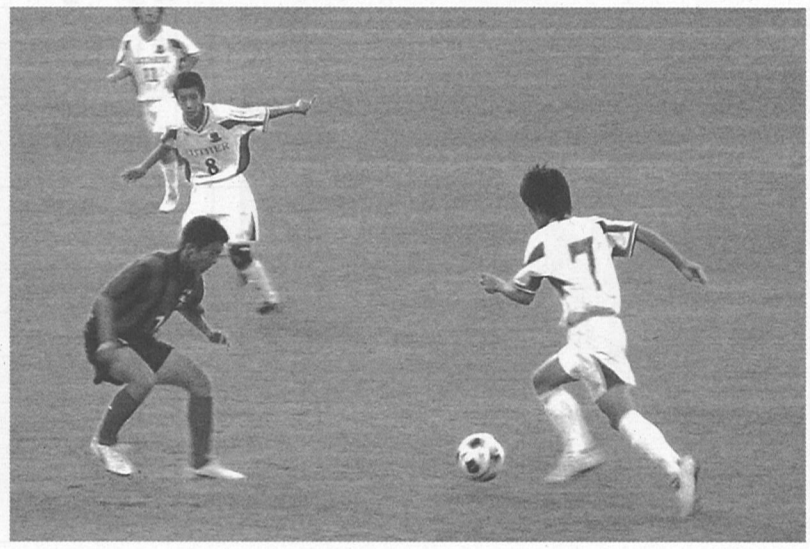
つづいて表彰式が行われた。

2年連続優勝を成し遂げたルーテル学院中の選手たちがとても大きく見えた。

優勝旗やトロフィーを受け取る選手たちのさわやかな表情だった。

文　小林　晴香

第36回 全国中学校サッカー大会



白はルーテル学院中　赤は朝日丘中

第19回 全国少年少女草サッカー大会

MELSA熊本FCボニータ初優勝

8月20日から22日までの3日間、静岡県において「第19回全国少年少女草サッカー大会」が開催されました。

県内からは、女子の部にMELSA熊本FCボニータが参加し、全国32チームの頂点に立ちました。

大会初日は、過去2度の優勝経験をもつ神奈川県の林間SCレモンズとの戦いでしたが、3トップの両サイドの足の速さを生かしながら先制し、後半にも2点を追加して勝利を収めることができました。その後の予選リーグは、持ち前の足と展開の速さで相手チームを翻弄し、3勝を納めて会場決勝へと進みました。

会場決勝は、東京の多摩サッカークラブとの戦いでしたが、事前に練習してきたコーナーキックからの得点などで4―0と勝利することができ、いよいよ準決勝です。

準決勝の相手は、色んなチーム関係者からも相当強いと言われ、MELSA自身も昨年、同じリーグで負けていた「静岡JFC女子」です。

昨晩の雨で多少ぬかるんだグラウンドコンディションの中、相手が目覚める前にと攻撃を仕掛けていき2点を先制することができましたが、相手も持ち前のパスワークと高いレベルの個人技で1点を返され、その後1点を追加したもののディフェンスを崩され、見事なミドルシュートを打たれてまたもや一点差とされ、前半を3―2で終了しましたが、後半は相手の攻撃に押し込まれる場面も多くありましたが、何とか全員の頑張りでそのまま逃げ切ることができ、ついに夢に見た日本平での決勝戦です。

決勝戦の相手は、神奈川県の新林レディースとの戦いでしたが、準決勝からほとんど続けての決勝戦でしたので、選手たちも疲れがピークにきており、ゴール前にボールを運びはするものの、中々ゴールを奪うことができません。

延長・PK戦を覚悟した後半残り2分、相手ゴール前の混戦のボールを左サイドの味方に落し、そのままシュートしたボールがループシュートとなり、相手ゴールへと吸い込まれていきました。結局この1点が決勝点となり、参加5回目にして念願の「全国少年少女草サッカー大会女子の部」の頂点となりました。

総監督　梅本敏憲
監　督　高木定伸
コーチ　川俣昭二

詳しくはMELSAホームページにどうぞ
http://melsa.web.infoseek.co.jp/

写真はすべてall sports.jp提供

決勝点を入れ喜びにわくMELSAのイレブン

優勝したMELSA熊本ボニータのチーム

MELSA熊本FCボニータ

監督	高木　定伸
コーチ	川俣　昭二

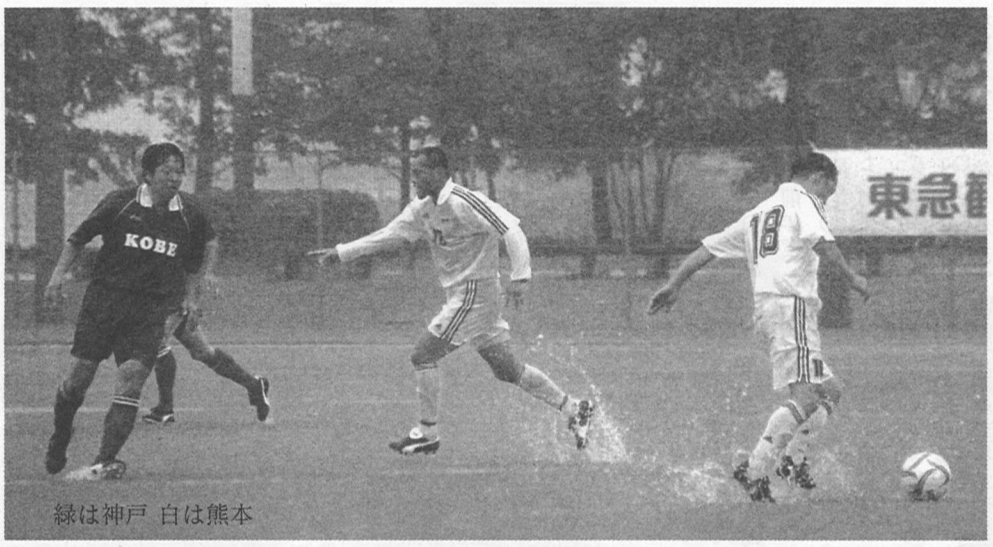
背番号	ポジション	選手名
1	GK	島田里織菜
2	DF	島津　冴香
3	DF	西村伽奈子
4	MF	井島真利華
5	DF	合志　早織
6	DF	橘木友理恵
7	MF	工藤沙亜耶
8	MF	光永　彩乃
9	FW	松本紗哉香
10	FW	梅本　芽依
11	FW	松永　真理
12	FW	内藤　里音
13	MF	樋口　朝子
14	FW	松永　真実
15	MF	古荘　梨菜
17	DF	川俣　春菜
18	DF	笹井　涼夏

日本スポーツマスターズ2005富山大会
予選突破ならず県選抜

日本スポーツマスターズ2005サッカー競技は9月23日～26日まで富山市、県総合運動公園で行われた。

熊本県選抜チームはCグループに所属し、23日の第一試合は開催県代表の富山北斗キッカーズと対戦4対1で勝利し、24日は四国第一代表の徳島マスターズと対戦し1対2で敗退する。

25日の神戸シニアクラブの試合は台風の影響で風と雨の中で試合は行われ、0対0の引き分けに終わった。勝点4で決勝トーナメントには行けず敗退した。



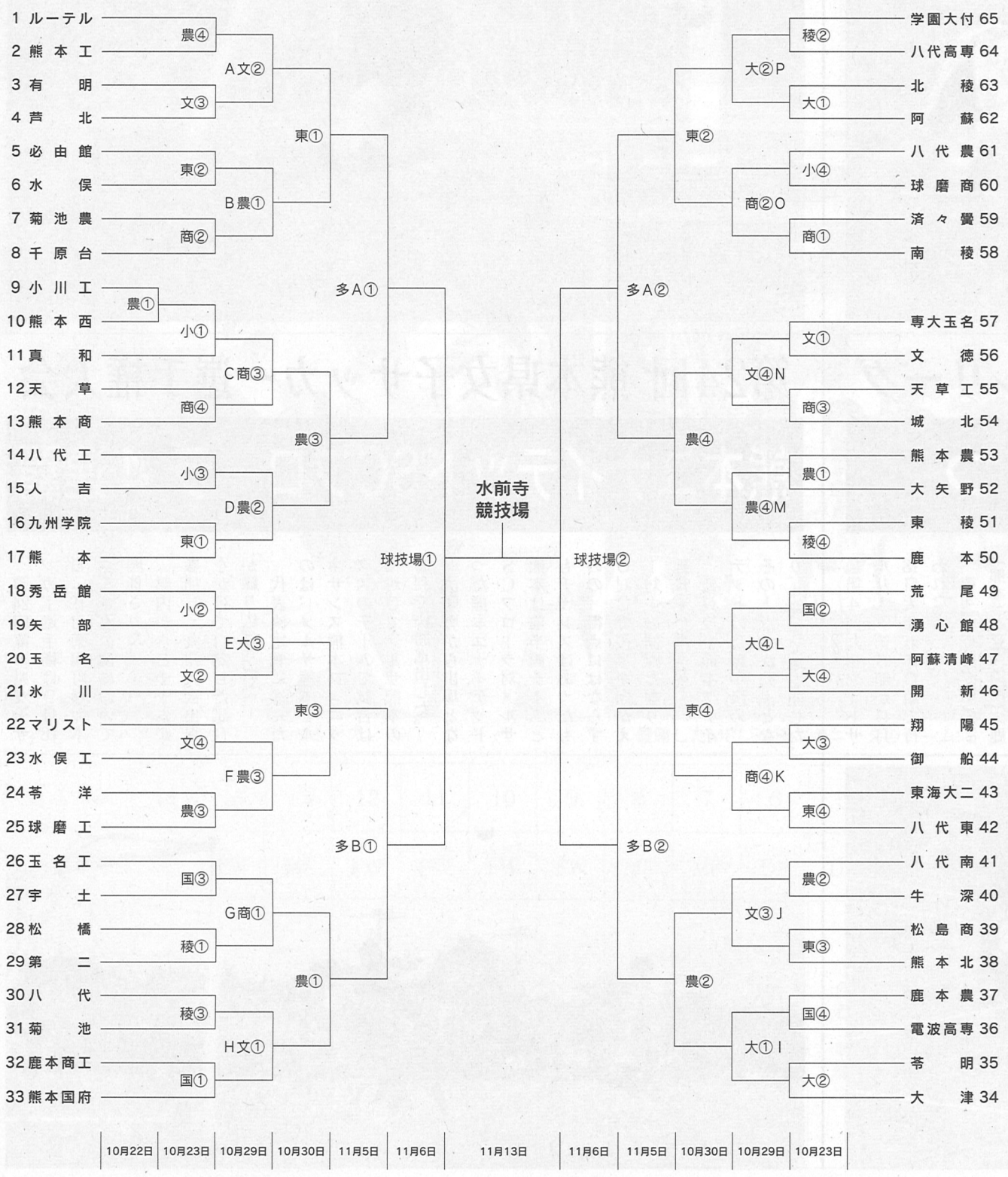
緑は神戸 白は熊本

青は富山 白は熊本

第84回 全国高等学校サッカー選手権大会熊本県予選

1 会 場 水前寺陸上競技場・大津町運動公園球技場・多目的グラウンド・熊本農業（農）・熊本商業（商）・文徳（文）・大津（大）・東稜（稜）
東海大二（東）・熊本国府（国）・小川工業（小）
2 交 替 9名通告 3名
3 試合時間およびキックオフの時間

10月22日（土）	開会式9：00 ①10：30	(70分-PK)
10月23日（日）	①10：00 ②11：30 ③13：00 ④14：30	(70分-PK)
10月29日（土）	①10：00 ②11：30 ③13：00 ④14：30	(70分-PK)
10月30日（日）	①10：00 ②11：30 ③13：00 ④14：30	(70分-PK)
11月 5日（土）	①11：00 ②13：00	(80分-20分-PK)
11月 6日（日）	①11：00 ②13：00	(80分-20分-PK)
11月13日（日）	①12：00	(80分-20分-PK)



天皇杯一回戦
ロッソ熊本初戦敗退

第85回天皇杯全日本サッカー選手権大会は9月17日都道府県代表など各地で20試合を行った。

熊本県代表のロッソ熊本は水前寺競技場でJFLの岡山県代表三菱自動車水島FCと対戦した。

延長戦の末1対2で敗れる、ロッソ熊本はキックオフより主導権をにぎり数々の攻撃サッカーを展開したが、精度を欠いたシュートには遺憾ともしがたい状況だった。

前半24分三菱自動車水島FCにディフェンスの裏をつかれ1点を奪われた。

その後、熊本県代表のロッソはロスタイムに1点を入れ同点においついて延長に入った。前半は0対0のまま後半に入りFKを起点に1点を入れられ天皇杯敗退が決まった。

赤ロッソ 白岡山

第17回 九州レディスサッカー大会

スポーツの森・大津マリノス3連覇

第17回九州レディスサッカー大会は9月3日、4日、福岡市平和台陸上競技場にて、九州各県から8チームが出場し開催された。

熊本県からは、スポーツの森大津マリノスと、城山FCレディスが出場した。

1回戦スポーツの森大津マリノスは、福岡県代表の福岡ベアーズと対戦し、6対0で下し準決勝へ進んだ。

城山FCレディスは、大分県代表スカラブに惜しくも0対1で敗れた。

準決勝スポーツの森大津マリノスは前年度2位の鹿児島代表の東谷山おごじょと対戦し、おごじょの堅い守りになかなか得点することが出来ず、前後半とも0対0で延長戦となるが、決まらずPK戦の末4対3で勝利、決勝戦に進出した。

決勝戦は、大分県代表のスカラブと対戦した。

前半は何か何かゴールが決まらず0対0で折り返した。

後半10分、FW福田がペナルティエリアで倒されPKとなり、MF村上がきっちり決めて1対0となった。

試合終了間際も、FW福田がGKと1対1となり、前へ飛び出して来た所をすかさずループシュートを決めて2対0でスポーツの森大津マリノスが3年連続3度目の優勝を飾った。

スポーツの森大津マリノスは11月18日から20日に静岡県で行われる、全国大会に九州代表として出場する。

文は広報委員　荒木直子

高円宮杯 全国ユース(U-15)

アリアンサ熊本 初優勝

平成17年度高円宮杯全日本ユースサッカー選手権熊本県大会は9月10日・11日にA・Bパート各4チームによる予選リーグを行い、決勝トーナメントには各パートの上位2チームが進出した。

準決勝ではアリアンサ熊本がエスパーダを2対0で下し、FCK光の森対出水中は延長でも決着せず、PK戦の末、FCK光の森が競り勝ち、決勝へ進出した。

決勝戦はアリアンサ熊本対FCK光の森の対戦となった。

お互いに厳しいプレスをかけ、激しい中盤でのボールの奪い合いが続いた。

前半7分アリアンサは中盤とDFラインの連携で右サイドの③永野がFCKのDFライン裏へのクロスを送り、⑪中田が素早く反応し、高さで競り勝ち頭で押し込んだ。

その後、FCKも反撃するが、落ち着いたアリアンサDF陣とゴールキーパーの好守で得点を奪えず、1対0でアリアンサは初優勝を飾った。

アリアンサ熊本FCは熊本県代表として、九州大会（福岡・グローバルアリーナ10月8日～10日）へ出場する。

第24回 熊本県女子サッカー選手権大会

熊本ユナイテッドSCフローラ 4連覇

第24回熊本県女子サッカー選手権は9月18日・19日菊陽町杉並木さんさん公園において開催された。

県内から8チームが参加し、九州大会出場をかけて白熱した試合が繰り広げられた。

代表決定戦に進んだのは、メルサ熊本とルネサンス熊本フェニックスのチームで試合は12対0でメルサ熊本の勝利で決勝進出した。

決勝戦から出場となった熊本ユナイテッドSCフローラ対メルサ熊本は前半両チームともチャンスはあったものの、得点にはならず0対0で後半を向かえ1対1の同点となり、延長戦へ進んだ。

延長後半熊本ユナイテッドの斉藤が決め、その1点が決勝点となり、4連覇で幕を閉じた。

赤はユナイテッド 水色はメルサ

第4回 九州フットサルリーグ

SoBiAnca勝つ

第4回九州フットサルリーグ第6節が9月18日大津町体育館で行われた。

第4試合はSoBiAnca（熊本）とDELSOLE（鹿児島）のゲームが行われた。

動いたのは前半開始5分に早いボール回しからのシュートでSoBiAncaのゴール。

その後も追加点を加え前半にSoBiAncaが3点を入れた。一方のDELSOLEは、チャンスはあったものの得点には結びつかず、無得点で前半を折り返した。

後半もSoBiAncaの勢いは衰えず、最終的には7対1で熊本の勝ち。

第9回 NHK杯 熊本県サッカー選手権大会

ロッソ熊本初優勝、天皇杯本大会出場

天皇杯全日本選手権大会県予選を兼ねた第9回NHK杯熊本県サッカー選手権大会は8月28日(日)熊本市水前寺競技場で開催され5対0でロッソ熊本がアマチュアクラブ代表の鶴屋百貨店を下し初優勝を飾った。

ロッソ熊本は九州リーグ負けなしのチームにアマチュアクラブ代表の鶴屋との対戦となったが、前半16分MF関光博のセンターリングをFW嘉悦が頭で合わせ先制。その後も得点を重ね試合終了迄に5対0と圧勝する。

これで県代表には九州リーグ1位のロッソ熊本が、又水前寺競技場で9月17日(土)に本大会に出場する。

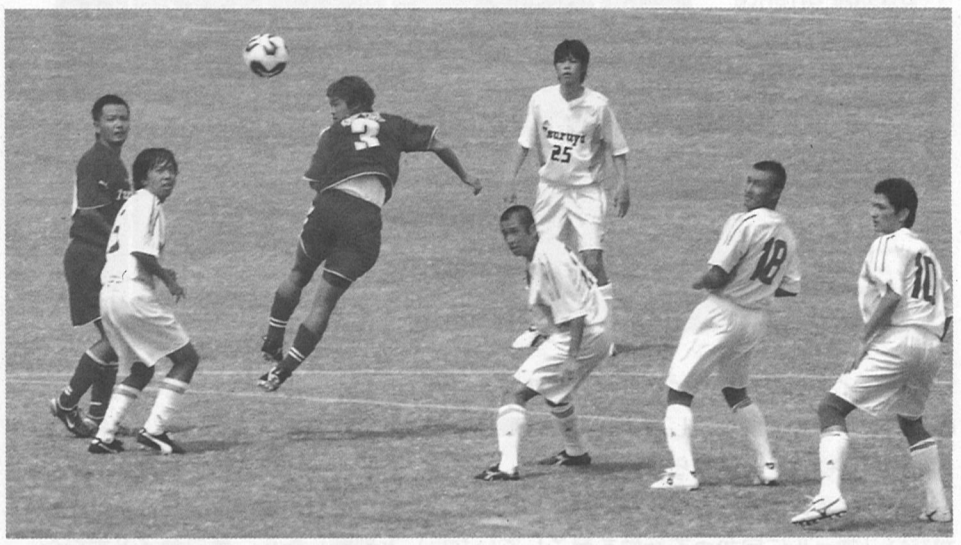
相手はJFLの岡山県代表の三菱自動車水島と対戦する。

尚、天皇杯は新の日本一を決定する大会ですので各県代表とJ1、J2、の全チームとJFL、大学生の各チームが参加する、決勝戦は一月一日東京の国立競技場で開催されますが、又NHKでは元旦の日でもかかわらず放送の予定が組みこまれている。

天皇杯2回戦は9月19日(月)「敬老の日」ため祭日同じ場所の水前寺競技場で開催されます。

本大会はすべて有料試合ですので（詳細は熊本県サッカー協会096—334—5565まで）本年は一、二戦のみ熊本県開催。

赤はロッソ熊本　白は鶴屋百貨店



第14回 熊本県シニアサッカーリーグ戦

熊本ベアーズサッカークラブ通算13回目の優勝

第14回熊本県シニアサッカーリーグ戦は、5月8日より8月21日迄北熊本自衛隊グラウンド他七会場で行われた。

今年は総数12チームで総当たり一回戦で行われた。

勝利チームに勝点3、引き分けには勝点1、負けには0があたえられた。

1位は通算13回目の優勝の熊本ベアーズサッカークラブ、2位はランザ熊本シニアサッカークラブがなった。

又、1位と2位は来年福岡県で行われる九州シニアサッカー大会に熊本県代表として出場することが決定した。

閉会式は試合終了後行われた。

第14回 熊本県シニアサッカーリーグ成績表

	チーム名	勝点	試合数	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点
1	熊本ベアーズ,S.C	26	11	8	2	1	39	12	27
2	ランザ熊本シニア,S.C	25	11	8	1	2	31	17	14
3	南園Eシニア,S.C	22	11	7	1	3	28	14	14
4	熊本県教員団OB	21	11	6	3	2	25	13	12
5	県庁イレブン,S.C	20	11	6	2	3	23	19	4
6	ルネッサンスFC熊本シニア	15	11	4	3	4	16	21	-5
7	八代シニア,S.C	15	11	4	3	4	14	19	-5
8	荒・玉トシトラーズ	13	11	3	4	4	11	14	-3
9	アデルカーズ・シニア,S.C	11	11	3	2	6	13	22	-9
10	自衛隊シニア,S.C	9	11	3	0	8	18	25	-7
11	南園Aシニア,S.C	8	11	2	2	7	14	24	-10
12	熊本四十雀,S.C	1	11	0	1	10	4	36	-32

最終節より熊本ベアーズ青　黄はアデルカーズシニア

高校一年生サッカー大会
ルーテル高校が2連覇

熊本県高校一年生サッカー大会は東海大二高校グラウンドなどで予選リーグ、決勝トーナメント1回戦を行った。

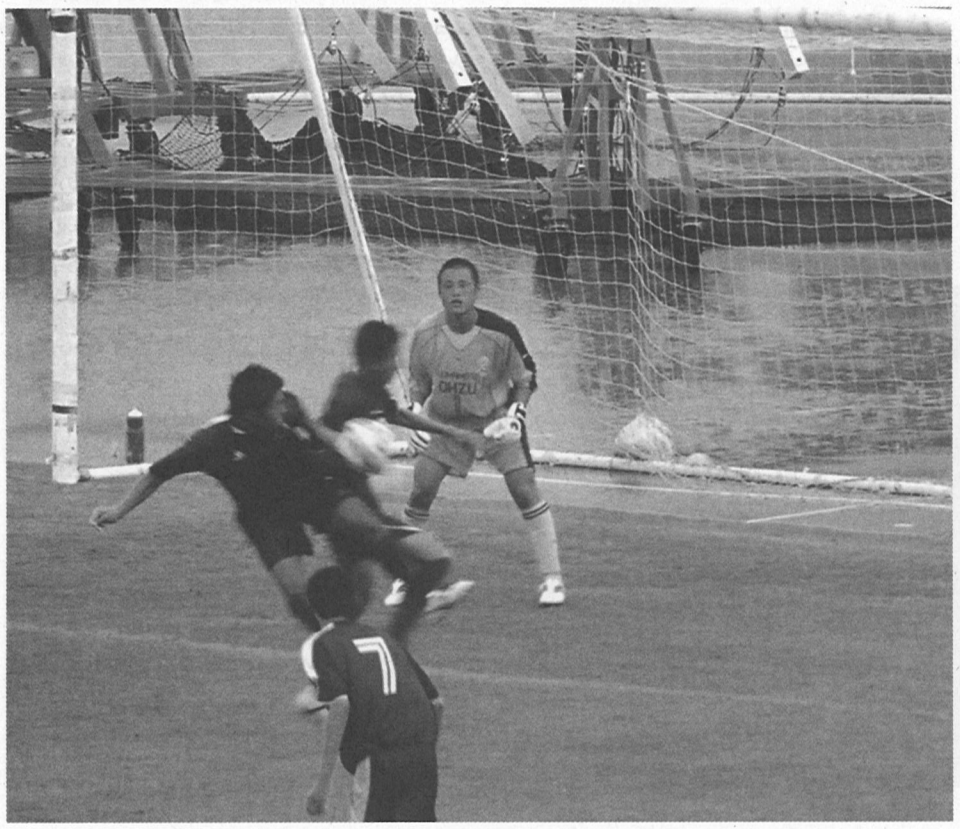
成績は次の通りである。ルーテル3—0鹿本、熊本商業1—0東海大二高校、八代工業0（PK3—1）0八代高校、秀岳館2—0熊本工業、国府高校2—0九州学院、済々黌3（PK9—8）3熊本農業、大津2—1熊本西高校、学園大附4—0専大玉名高校、最終日の8月20日は水前寺競技場で決勝戦と3位決定戦を行う。

3位決定戦

学園大附 3（2—1、1—0）1 八代工業

決勝戦

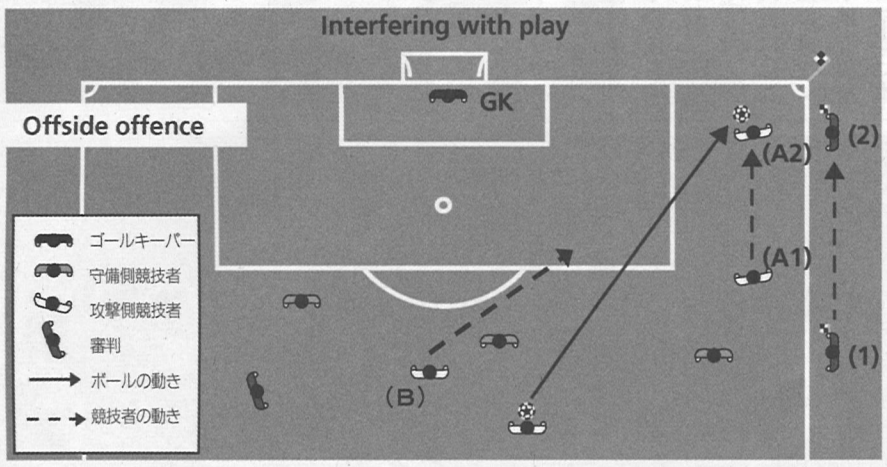
ルーテル 1（0—0、1—0、0—0、0—0）0 大津



されるためであるが、オフサイドについては、当然のことながら副審が「オフサイドポジションか否か」および「プレーまたは相手競技者に干渉したか、等」について判断し、主審の判定の前に副審がオフサイドであるか否かを判定する（旗を上げる）ことになる。

＜参考＞

次の図は、「サッカー競技規則2005／2006（P.60）」にある「オフサイドに関する図解：４」であり、今回の通達により新たな解釈（波線部分）を加えたものである。この図の他に12のオフサイドに関する図解が掲載されているが、変更はない。



オフサイドポジションにいた攻撃側競技者（Ａ１）がボールに向かって、（Ａ２）の位置でボールをプレーした。副審は、競技者が（Ａ２）の位置でボールに触れたときに旗を上げなければならない。

ただし、オンサイドポジションにいる攻撃側競技者の誰もボールをプレーする機会がない（ボールに向かって行動を起こしていない）と判断したら、オフサイドポジションにいる競技者がボールをプレーする、あるいはボールに触れる前に、副審はオフサイドとして旗を上げることができる。

しかし、オンサイドポジションにいる攻撃側競技者（Ｂ）がボールを追っている状況でプレーできる機会があると副審が判断した場合は、最終的に（Ａ）、（Ｂ）いずれの競技者がボールをプレーする（触れる）か、を見定めるまで副審は旗を上げることを待たなければならない。

“相手競技者がプレーに加わり、身体的接触の可能性があると主審が判断したならば、オフサイドポジションにいる競技者は、相手競技者への干渉を理由に罰せられるものとする。”

日本協会の解説

味方競技者によって送られたボールに対して、オフサイドポジションの競技者と相手チームの競技者（例えばゴールキーパーやディフェンス）がほぼ同時にボールへチャレンジしていくような状況では、その方向が正面から、横方向からあるいは後方からでも両者の間に身体接触が起こる可能性が生じる。その場合は、相手競技者への干渉を考慮し副審は旗を上げるべきであり、主審は速やかに決定を下さなければならない。オンサイドポジションの競技者と相手競技者との競り合いがボールを介して正しく行われるならば身体接触は認められる。しかし、相手競技者への干渉でオフサイドの反則にあるにも拘わらず、副審の旗や主審の笛が遅れることで危険な身体接触が起こり、競技者が負傷することは避けなければならない。

これに加え、オフサイドの反則（第11条－違反/罰則）後の試合再開の位置に関して、IFABは下記の説明に対して同意しました：

“試合の再開は、競技者がオフサイドポジションにいると判断された位置から間接フリーキックを行うものとする。”

これらの指示を貴協会の主審ならびに副審に連絡するようお願いします。またこの機会にFIFA規約第２条及び第６条に関し再度連絡します。第６条の１項は：“FIFAの各メンバーはIFABによって発行された競技規則に従ってサッカーを行うものとする。IFABのみが競技規則を策定し、変更することができる”と明示しています。

この説明が本件に関する議論を終結させ、IFABの決定並びにFIFA規約が完全に尊重されることを願います。

国際サッカー連盟
事務局長代理　ジェローム・シャンパーニュ

㈶日本サッカー協会審判委員会

オフサイドの適用に関する新たな指示（通達）

８月17日付にて、FIFA回状No.987「競技規則第11条（オフサイド）の決定2の適用に関するIFAB（国際サッカー評議会）の勧告」として、次の２点について加盟協会へ通達されました。

①「プレーへの干渉」の解釈

相手競技者への干渉が考えられない状況で、オフサイドポジションの競技者がプレーするためにボールを追っている場合、副審はその競技者が**ボールに触れる（プレーする）まで旗を上げることを待つ**」というこれまでのFIFAの指示（2005年７月15日）に、**「オンサイドポジションからボールへプレーしようとする攻撃側競技者が誰もいない場合は、」**という条件付きで、「オフサイドポジションの競技者が**ボールに触れる前に罰せられる（副審の旗～主審の決定）こともある。**

②「相手競技者への干渉」の解釈

オフサイドポジションの競技者がプレーするためにボールを追うことで、**相手競技者との身体的な接触の可能性**があると判断される場合は、オフサイドとして罰せられる（副審の旗～主審の決定）。

また、次の点についても連絡がありました。

＊「オフサイド時の再開位置（間接フリーキックの位置）」

味方競技者によってボールを触れられるかプレーされた瞬間に、オフサイドポジションにいると判断された位置から再開する。

以下に、FIFAからの回状と日本協会の解説を示します。それぞれの協会、連盟は加盟クラブ、チームそして審判員などの関係者へ周知徹底をしていただくようお願いいたします。

本通達については日本協会が主催する試合については、９月９日から開催される国民体育大会（岡山）より、各地域、都道府県協会が主催する試合においては遅くとも10月末日までに施行するようお願いします。

なお、Ｊリーグでは９月３日、ＪＦＬでは９月24日、Ｌリーグでは９月25日から施行するものとします。

FIFA回状No.987

競技規則第11条（オフサイド）の決定２の適用に関するIFABの勧告：

2005年７月１日に発効となった競技規則2005に関し連絡します。2005年２月26日、ウェールズにて行われた会議にて、国際サッカー評議会（IFAB）は第11条－オフサイドに関連した２つの決定を下しました。

これら２つの決定は、第11条－オフサイドの文章や表現を変更するものではなく、むしろ競技や攻撃的プレーに有益となるよう文章を明確にしたものです。

しかしながら、これらの決定の適用に際し、初期のフィールド上で起こったことでは、ある特定の状況の説明を必要としました。そのため、FIFA副会長であり審判委員長のAngel Maria Villar Llona氏を議長としたIFABのワーキンググループの会議が2005年８月11日、チューリッヒにて行われました。第11条の文章及び表現、その決定１と２、またその精神も変更されませんでした。しかしながら、ワーキンググループは“第11条、IFABの決定２の適用に関する勧告”として以下の文章に関して同意しました：

“オンサイドポジションにいる他の味方競技者の誰もボールをプレーする機会がないと主審が判断したならば、オフサイドポジションにいる競技者がボールをプレーする、あるいはボールに触れる前に罰せられることもある。”

日本協会の解説

今回の通達により、オフサイドポジションにいる競技者が、相手競技者への干渉（ボールの進む方向に位置して、動く、プレーのそぶりをして、相手の視線を遮る、相手の動きを邪魔する、相手を欺く、相手を惑わせる）が考えられない状況でボールを追っている場合でも、**ある条件下**においては**ボールに触れる**（プレーする）前に「プレーに干渉した」と判断し、**副審が旗を上げることができるようになった。**

ある条件下とは、オフサイドポジションの競技者がプレーするためにボールを追っているとき、オンサイドポジションにいる競技者の誰もボールをプレーする機会がない（ボールに向かって行動を起こしていない）ということである。

副審は「①オフサイドポジションにいる競技者がプレーするためにボールを追っている②他の攻撃側競技者が誰もボールをプレーする機会がない」という、２つの条件を確認した時点で旗を上げることになる。副審は常に“Wait and See”に心がけ、この条件下においてオンサイドポジションにいる競技者がプレーできる機会があるかないかを速やかに、かつ的確に判断することが必要となる。

なお、FIFAからの通達では“…主審が判断したら…”と表現されており、副審の判断については述べられていない。これは、最終的な判定は主審によって下